

学期	月	時数	単元	学習活動	観点別評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Ⅰ学期	4	Ⅰ	見えないだけ	Ⅰ 詩を読み取る。 好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
		4	小説 アイスプラネット 漢字に親しもうⅠ	Ⅰ 作品を通読する。 注意する語句・新出漢字を調べる。 2 登場人物の設定を確かめる。 冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。 人物どうしの関係を図で整理する。 ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。 「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。 手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。 ぐうちゃんのかえ方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。	積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
		Ⅰ	[聞く]意見を聞き、整理して検討する	Ⅰ 二次元コードの音声を聞いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。 ・根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き(「理由づけ」)に無理や飛躍がないか検討したりする。 2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。 ・ペアやグループで意見や根拠の適切さについて話し合って考えを深める。 3 学習を振り返る。 ・聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。	進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。
		2	文法への扉Ⅰ 単語をどう分ける？ 文法Ⅰ 自立語	Ⅰ P3Ⅰの導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 2 P242「文法Ⅰ 自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ・P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。		学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。

5	5	魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	1 提案内容を決める。 ・誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 ・現状の課題を見つけ、その解決策を基にするなどして、提案内容を決める。 2 話の構成や表現を工夫する。 ・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 3 プレゼンテーションをする。 ・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。 4 学習を振り返る。 ・いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。 ・録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。	・自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 ・資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。	自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
	3	古文 枕草子 [書く] 自分流「枕草子」を書こう	1「枕草子」を音読み、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 ・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 3 自分流「枕草子」を書く。 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。 ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由とともに挙げる。 ・書いた「自分流『枕草子』」を、友達と読み合い、感想をまとめる。	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。 ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
	4	クマゼミ増加の原因を探る	1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。 ・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、筆者の考えと、自分の考えを書く。 4 考えたことを話し合う。 ・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのか、考えたことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。 ・図などを用いて情報を整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の内容を読み取るうえで、最も効果的だと感じた図表や写真はどれか、理由も含めて考えをまとめる。 ・図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな場面で活用できるか挙げる。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。 ・文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。	積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。

6	1	情報整理のレッスン 思考の視覚化	1 教材文を読み、情報の関係を整理して、視覚的に表す方法を理解する。 2 問題1～3に取り組む。 3 学習を振り返る。・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。		学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。
	5	情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る	1 題材を決め、情報を集める。 ・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。 ・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。 2 集めた情報を整理する。 ・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。 ・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 3 紙面構成を考える。 ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 5 感想を伝え合う。 ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。	粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。
	1	漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう2	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 2 練習問題に取り組む。 3 P60「漢字に親しもう2」に取り組む。	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

	5	短歌に親しむ [書く]短歌の創作教室 短歌を味わう	1 P62「短歌に親しむ」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 短歌を音読し、解説の内容を捉える。 ・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。 ・短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引く。 3 短歌に用いられた、表現の効果を考える。 ・それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめる。 4 好きな短歌を選び、感想を書く。 ・本文やP68「短歌を味わう」から好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。 5 学習を振り返る。 ・情景や心情を描写する語句のうち、感想を書くときに特に注目したものはどれか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者の解説を読んで初めて気づいた着眼点や表現の効果には、どのようなものがあつたか、自分の言葉でまとめる。 ・短歌の創作に生かせそうなことを挙げる。 6 P66「短歌の創作教室」に取り組む。 ・「準備体操」に取り組み、短歌を作る練習をする。 ・出来事や場面を決めて、短い文章を作る。 ・作った文章を基に、最も伝えたいことを決め、短歌を作る。 ・言葉の順序を入れ替えたり、比喩や体言止めなどの表現技法を使ったりして、表現を工夫する。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。 ・観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を 創作しようとしている。
	2	言葉の力	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる 2 文章の内容を捉える。 ・三つのまとまりそれぞれの内容を確認する。 3 筆者の考え方を読み取る。 ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、筆者は、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。 4 筆者の考え方について話し合う。 ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、知識や経験を踏まえて話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この文章を読むことで、どのようなものの見方や考え方を得ることができたか、自分の言葉でまとめる。 ・どのような知識や経験と結び付けて、筆者の考え方を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えが深まるきっかけになった友達の発言を挙げる。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
7	2	言葉Ⅰ 類義語・対義語・多義語 語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉	1 P72導入の課題に取り組む、言葉どうしの関係性について関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を探す。 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめる。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。

2	メディアの特徴を生かして情報を集めよう デジタル市民として生きる	1 メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・P76-77に示されたさまざまなメディアを、「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、評価する。 ・メディアの特徴を踏まえて、P76①-③それぞれの場合にはどれを選ぶとよいか、考える。 2 災害時の情報収集・情報の読み取りについて考える。 ・P78「やってみよう」に取り組む。・災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいか、また、どのように情報を読み取ればよいかを考える。 3 情報を受け取る時の留意点を考える。 ・P80「デジタル市民として生きる」を通読する。 ・情報の信頼性を判断するポイントについて考える。 4 学習を振り返る。 ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。	複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。
1	読書を楽しむ	1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 2「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。		本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
1	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま 読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう	1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム「『わからない』は人生の宝物」を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。	・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。

4	ヒューマノイド	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつのか、簡潔にまとめる。 ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。 3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。 ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。 4 作品を読んで考えたことを語り合う。 ・作品の構成や人物の言動の意味などに対する解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、語り合う。 ・「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達 of 解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げる 5 学習を振り返る。 ・「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達 of 解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げる。	・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 ・登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている	・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが作品の印象にどう関わるかを捉えている。	登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
3	字のない葉書	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 二つの思い出を整理する。 ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 3 表現に着目して、人物の人柄や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人柄を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。 ・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。 ・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。 4 「父」に対する「私」の思いについて考える。 ・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。 5 学習を振り返る。 ・随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか、考える。 ・随筆と小説の違いについて、考えを交流する。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
3	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	1 伝える相手や目的、内容を決める。 2 適切な通信手段を選ぶ。 3 手紙や電子メールを書く。・それぞれの形式に沿って書く。 ・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。 4 学習を振り返る。 ・書いた手紙や電子メールを読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し合う。	・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
1	[推敲]表現の効果を考える	1 遠山さんの手紙の下書きを読み、傍線部①～⑧を書き改める。 2 点線部㊦㊧について、より効果的な表現を考える。 3 学習を振り返る。 ・手紙を推敲する際のポイントを確認する。	・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。	粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。

10	1	言葉2 敬語	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。		今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
	2	聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	1 インタビューの準備をする。 ・教材文を読んで、役割を決める。 ・「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、インタビューの準備を行う。 ・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 2 インタビューを行う。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、一人5分程度でインタビューを行う。 3 学習を振り返る。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。
	1	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	1 教材文を読み、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字（同訓異字）の使い分けについて理解する。 2 教材文を読み、同じ音をもつ漢字から成る言葉（同音異義語）の使い分けについて理解する。 3 P119の練習問題とP120「漢字に親しもう3」に取り組む。	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	4	モアイは語る ——地球の未来	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。 ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。 4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。 ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 5 学習を振り返る。 ・論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開を吟味するときに大切だと感じたことを挙げる	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・文章の構成や論理の展開について考えている。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
	1	思考のレッスン2 根拠の吟味	1 教材文を読み、根拠の適切さの吟味のしかたと、意見の説得力の高め方について理解する。 2 問題1、2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠や「理由づけ」が適切かどうかを吟味することが大切だということを確認する。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。

	5	適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く	1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。 2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか、確かめる。 ・自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げる	意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	粘り強く根拠の適切さを考え, 学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
	1	聴きひたる 月夜の浜辺	1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 ・七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。 ・新出漢字を調べる。 2 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わい、情景や心情を想像しながら読む	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	詩の構成や表現の効果について考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
	1	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界/ 「平家物語」の主な登場人物たち	1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 2 『平家物語』の世界』『平家物語』の主な登場人物たち』を読み、「平家物語」の概要や文章の特徴、主要な登場人物やあらすじについて知る。 3 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」を知る。 4 作品を貫く「無常観」と重ねて、再度冒頭部分を朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読む。	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。		進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り, 学習課題に沿って朗読しようとしている。
11	3	扇の的 ——「平家物語」から	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 朗読して古典のリズムを楽しむ。 ・「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。 ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 ・「平家物語」の登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。 5 学習を振り返る。 ・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。 ・作品を読んで、現代に通じる(現代とは違う)と感じた部分などを挙げる	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	進んで登場人物の言動の意味について考え, 学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

3	仁和寺にある法師 ——「徒然草」から [書く]人物の特徴を捉えて論じよう	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。(・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。 4 作者の考え方について話し合う。 ・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことに……」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか、自分の言葉でまとめる。 ・どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか、確かめる。 ・作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考える。 6 人物の特徴を捉えて、論じる。 ・P157「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手順を確かめる。 ・「扇の的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度の文章にまとめる。→P270「語彙ブック」(人物を表す言葉) 7 文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。 8 学習を振り返る。・原文の内容を踏まえて登場人物の特徴を捉え、わかりやすく伝えられるように文章の構成を工夫したか、確かめる。	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
3	漢詩の風景	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。 3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が注目した構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。 ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合う。 4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読する。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か、自分の言葉でまとめる。 ・朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げる。	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。	進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

	4	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晩餐」を評した言葉に、印を付ける。 ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「カッコいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。 ・「『最後の晩餐』の新しさ」で筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。 3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。 ・「最後の晩餐」の魅力を説明する方法（説明のしかた）や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 4 筆者の意図や目的を考える。 ・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 5 学習を振り返る。 ・文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げる。	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
	1	思考のレッスン2 具体と抽象	1 教材文を読み、具体と抽象について理解する。 2 問題1、2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。		学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。
12	1	【話し合い（進行）】 話し合いの流れを整理しよう	1 進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴する。 2 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめる。 3 P184下段の「話し合いの流れを整理するために」を参考に、まとめた意見を見直す。 4 見直して気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。・話し合いの流れを整理する際のポイントを確認する	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。	話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。
	2	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 文法2 用言の活用	1 P185の導入や解説を読み、動詞の語の形の変化のしかたに規則性がありそうなことを知る。 2 P246「文法2 用言の活用」を読み、「活用」の意味や活用形などの用語、動詞・形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確認する。	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。

4	立場を尊重して話し合おう 討論で視野を広げる	1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場（肯定側・否定側）を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。 3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。 4 討論を振り返る。 ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。 5 学習を振り返る。 ・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げる。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。	進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
1	漢字に親しもう4	1 P190「漢字に親しもう4」に取り組む。	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	「自分らしさ」を認め合う社会へ 父と話せば/ 六千回のトライの先に 読書案内 本の世界を広げよう	1 P192「父と話せば」を通読する。 2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。 3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。

8	走れメロス [書く]作品の魅力をまとめ、 語り合おう 漢字に親しもう5	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の設定と場面の展開を押さえる。 ・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。 ・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。 ・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。 ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 5 学習を振り返る。 ・どの語句に着目して、作品の魅力を語ったか、自分の言葉でまとめる。 ・友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか、自分の言葉でまとめる。 ・他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げる。 6 P222「漢字に親しもう5」に取り組む。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
2	文法への扉3 一字違いで大違い 文法3 付属語	1 P223の導入や解説を読み、付属語を使い分けることで内容を的確に伝えられることを知り、その働きや種類について学ぶことを理解する。 2 P251「文法3 付属語」を読み、助動詞や助詞の種類や働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。		今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
5	描写を工夫して書こう 心の動きが伝わるように物語を書く	1 題材を決める。 ・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。 2 設定や構成を考える。 ・設定(時、場所、登場人物)を考える。 ・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。 ・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。 3 物語を書く。 ・描写を工夫して物語を書く。 ・書きあがったら、推敲する。 4 作品を読み合う。・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。 ・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見いだす。 5 学習を振り返る。 ・新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか、挙げる。 ・心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合う。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
2	2 言葉3 話し言葉と書き言葉	1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 2 音声の性質から話し言葉の特徴を、文字の性質から書き言葉の特徴を捉え、それぞれの伝え方の注意点や工夫について理解する。 ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉)	話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。

	2	漢字3 送り仮名	1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 3 P231の練習問題に取り組む。	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
	4	国語の学びを振り返ろう 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る	1 対話を通して考える。 ・1年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。 ・「国語を学ぶ意義」を考える。 2 コピーにまとめる。 ・自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。 3 コピーの説明を書く。・そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。 4 クラスで共有し、交流する。 ・作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・1年間の学びを振り返る際に、具体的な変化をどのように抽象化してまとめたか、確かめる。 ・対話の際に、互いの考えを尊重しながら、さらに考えを深めるために、どのような点を心がけたか、自分の言葉でまとめる。 ・作品に付いたコメントから見いだした、自分の文章のよい点や改善点は何か、挙げる。 ・友達の作品を読み、さらに考えが深まったことや新しく気づいたことを挙げる。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ・表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。
3	2	鍵	1 詩を音読する。 2 印象に残った語句や表現を話し合う。 ・詩の中の印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合う。 3 表現の意味を考える。 ・詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。 ・「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるか考える。 4 作者のものの見方について語り合う。 ・「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合う。 5 学習を振り返る。 ・詩の中で使われているどのような語句に着目したか、挙げる。 ・作者のものの見方を考える手がかりとなった友達の発言にはどんなものがあったか、振り返る。 ・「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表す。	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。

		3	国語の力試し	1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。	・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 ・観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。 ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。